

北九州市田原山崎古墳出土の古墳人骨

松下孝幸*・松下真実**

【キーワード】：福岡県、古墳人骨、横穴式石室、保存不良、大腿骨

はじめに

北九州市小倉南区田原1丁目に所在する^{たはらやまさき}田原山崎古墳の発掘調査が宅地造成工事に伴っておこなわれた。調査は1997(平成9)年5月に実施され、石室から人骨が検出された。

福岡県東部地域での古墳人骨の出土例は行橋市の竹並遺跡の横穴墓から出土した古墳時代後期人骨がよく知られている(九州大学、1988)。この例以外には北九州市の浦山古墳(松下・他、1994)、平石棺群内南方浦山石棺群2号石棺とみやこ町(旧・犀川町)の古川平原古墳(松下、1997)、岡垣町の南ノ前古墳群(松下、2000)から出土した例があるにすぎない。また、山口県の西部地域では豊浦町の汐汲遺跡(松下・他、1986)、菊川町の風呂ヶ迫横穴墓(松下、1996)から出土した古墳人骨がある。前者は比較的保存状態がよく、その特徴を知ることができたが、後者は保存状態はよくなかった。このように、周防灘・響灘地域での古墳人骨の出土量は著しく少なく、古墳人の形質については不明な点が多い。

上記の出土例のうち、四肢骨の特徴を知ることができたのは古川平原古墳、南ノ前古墳群(横穴墓)、汐汲遺跡から出土した人骨にすぎない。古川平原古墳出土の男性の四肢骨は細く、南ノ前古墳人の四肢骨は男女ともに骨体は細いが、長さは男性は短く、女性は長いものであった。

本例は古墳が盗掘を受けていたこともあり、保存状態はよくなかったが、現場で人骨の検出作業をおこなったので、残存していた骨の種類や本数を確認することができた。出土人骨の人類学的観察と計測をおこなったので、その結果を報告しておきたい。

資 料

人骨は横穴式石室の一部に集中して検出された。埋葬された時の状態は保っておらず、人骨はかなり散乱していた。人骨とともに耳環と勾玉が検出されたが、検出された位置から推測して、耳環は被葬者の耳につけられていたものと思われる。

人骨は礫床に近いものほど保存状態が悪く、礫床よりもやや高いレベルにあった人骨ほど保存状態がよかったが、それでも骨質がもろく、人骨の検出や取り上げがかなり困難であった。現場で検出し、同定できた骨は、大腿骨、脛骨、橈骨、尺骨、肩甲骨、中手骨および頭蓋の一部であった。また、歯も検出できたが、保存状態は著しく悪かった。

橈骨は4本残存していた。うち2本は同一個体(RA1、RA2、男性)で、残り2本はともに性別不明で、うち1本は右側、残り1本は左右を判別できない。橈骨は2体分ないし3体分であろう。大腿骨は3本残っており、2本は女性大腿骨、残りの1本は男性大腿骨である。すなわち、大腿骨は3体分(男性1、女性2)なので、大腿骨から被葬者の数は少なくとも3体と推測される。

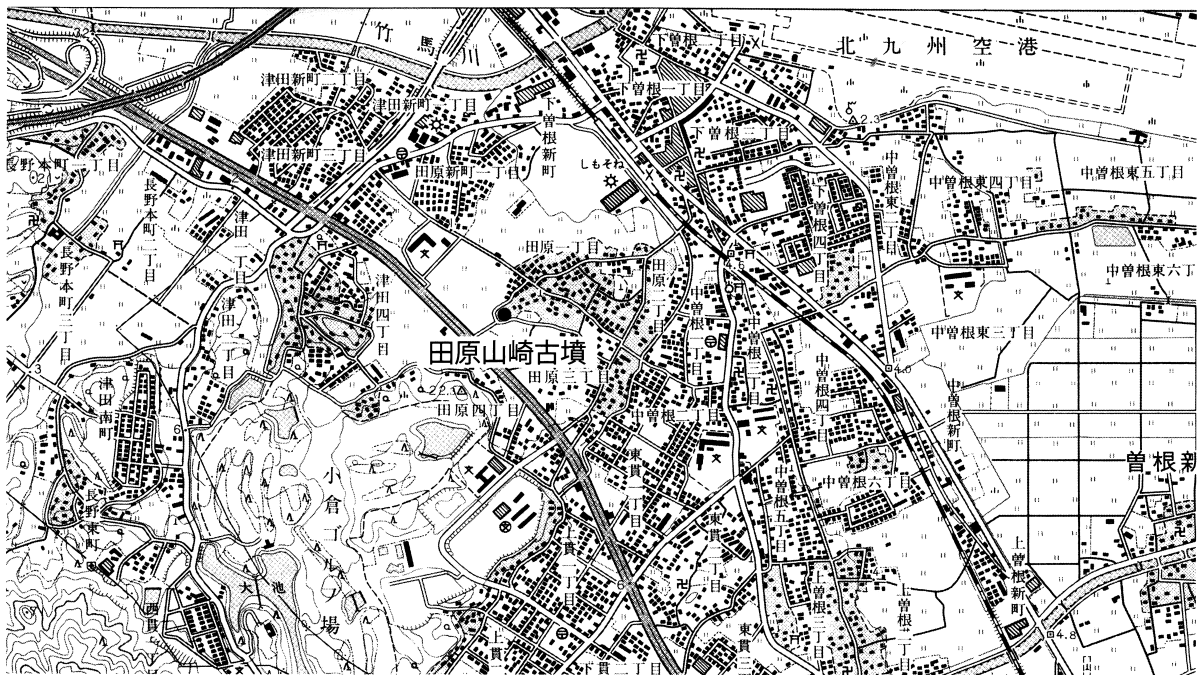
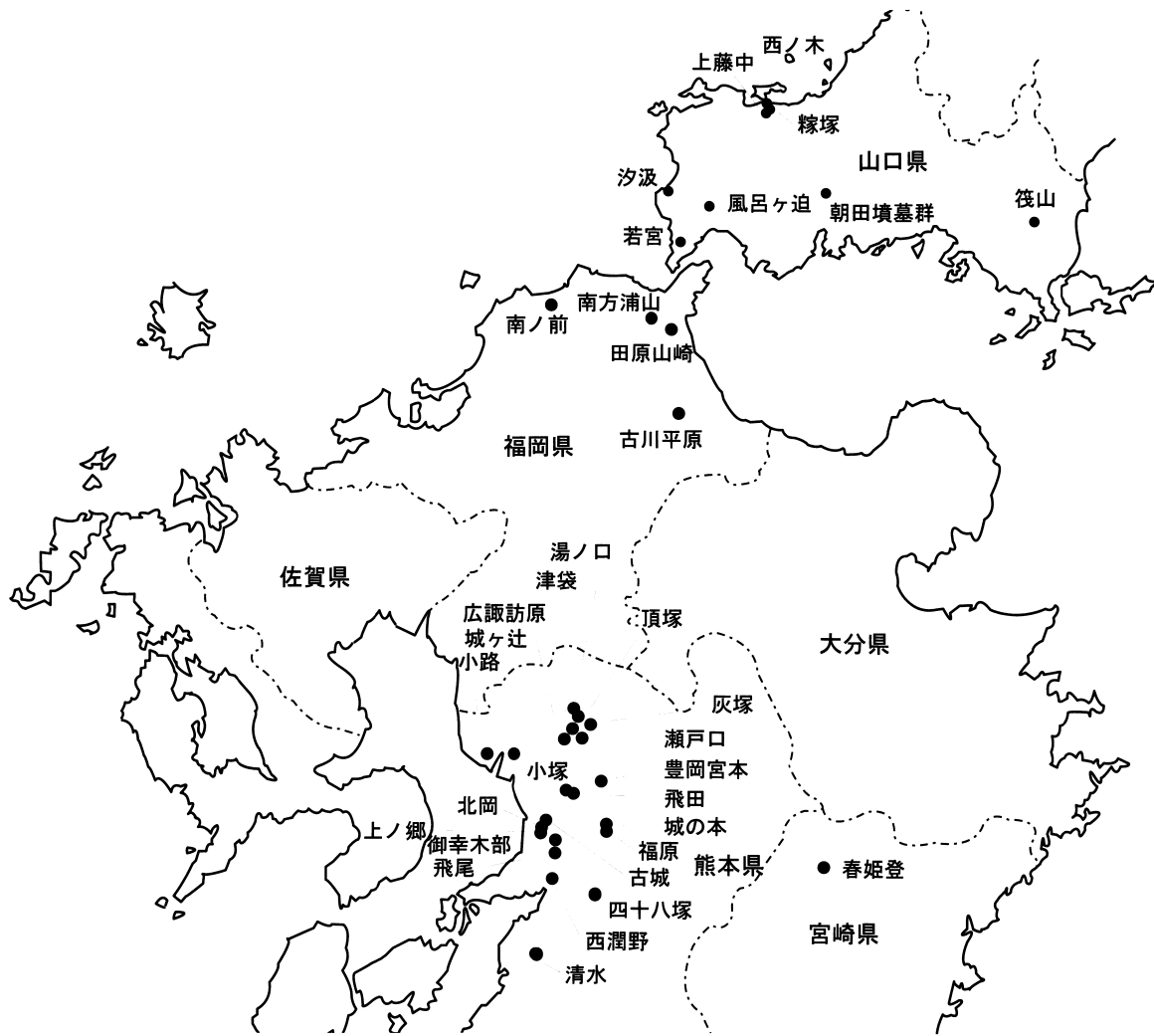


図1. 遺跡の位置 (1/25,000)

(Fig.1 Location of the Taharayamasaki tomb, Kitakyusyu City, Fukuoka Prefecture)

大腿骨、脛骨および橈骨などをそれぞれ個体ごとに分けることはできなかったので、人骨は各骨ごとに番号を付して、取り上げた。計測できた主な骨は表1のとおりである。

本人骨は、考古学的所見より、古墳時代後期に属する人骨群である。計測方法は、Martin-Saller(1957)によった。

なお、性判別については所見の項でそれぞれの骨ごとにその推定根拠を挙げた。

表1 出土人骨一覧 (Table 1. List of skeletons)

人骨番号	性別	年齢	備	考
RA1	男性	不明	橈骨体(右)	計測可 (RA1,2は同一個体)
RA2	男性	不明	橈骨体(左)	計測可
RA3	不明	不明	橈骨体(右)	
RA4	不明	不明	橈骨体(左右不明)	
UL1	男性	不明	尺骨(右)	
FE1	女性	不明	大腿骨体(右)	計測可
FE2	女性	不明	大腿骨体(右)	計測可
FE3	男性	不明	大腿骨体(左)	計測可

所見

1. 頭蓋・歯

頭蓋は左側側頭骨のごく一部が残存していた。歯は歯冠片が数個残存していたが、同定できたのは上顎の右側の大白歯冠ぐらいで、残りは同定できない。大白歯の咬耗は著しく弱いものであった。

2. 四肢骨

四肢骨は、橈骨、尺骨、寛骨、大腿骨を取り上げることができたが、いずれも骨質はもろい。

寛骨は左側の腸骨体が残っていたが、大坐骨切痕の観察はできない。橈骨体はそれほど細くないので、いずれも男性の橈骨と推定した。尺骨は右側の近位部のみで、径は小さいものではない。おそらく男性尺骨であろう。大腿骨は3本を取り上げることができた。また、計測も可能であった。

FE1(大腿骨1)(女性)

右側骨体である。骨体の両側面の後方への発達が悪く、骨体の断面は横広ろの楕円形であるが、骨体上部は扁平である。計測値は、骨体中央矢状径が22mm(右)、横径は26mm(右)で、骨体中央断面示数は84.62(右)となり、粗線や骨体両側面の後方への発達はきわめて悪い。骨体中央周は76mm(右)で、骨体は細い。また、上骨体断面示数は72.41(右)となり、骨体上部は扁平である。

FE2(大腿骨2)(女性)

右側骨体である。粗線の発達はよさそうであるが、中央部の計測はできない。計測はほとんどできない。上骨体断面示数は77.42(右)となり、骨体上部の扁平性は弱い。

FE3(大腿骨3)(男性)

左側骨体である。粗線は細いが、突出しており、骨体両側面も後方へ発達している。また、骨体上部もやや扁平である。骨体の径が大きいことから男性の大腿骨と推定した。計測値は、骨体中央矢状径が 28mm(左)、横径は 26mm(左)で、骨体中央断面示数は 107.69(左)となり、粗線や骨体両側面の後方への発達は良好である。骨体中央周は 85mm(左)である。また、上骨体断面示数は 78.13(左)となり、骨体上部の扁平性はあまり強くない。

考 察

今回出土した人骨のうち計測ができたものは、男性橈骨と男女の大腿骨のみであったので、橈骨と大腿骨について周辺地域から出土した古墳人骨との比較をおこなってみた。

表 2 は男性橈骨の主要計測値と示数値の比較表である。骨体中央周は 43mm で、南ノ前 (51mm) と朝田 (47mm) よりも小さく、骨体は細い。中央断面示数は 80.00 で、この示数値は南ノ前と朝田よりも大きく、骨体は扁平ではない。

表2 橈骨(男性、右、mm)(Table 2. Measurements and indices of male right radii)

		田原山崎 古墳人 福岡県 北九州市 (松下・他)	南ノ前 古墳人 福岡県 岡垣町 (松下)	朝 田 古墳人 山口県 山口市 (松下・他)
		RA-1	17-1-2	10-3
3.	最小周	41 (左)	-	-
4.	骨体横径	-	19	17 (左)
4a.	骨体中央横径	15 (左)	18	17 (左)
5.	骨体矢状径	-	13	13 (左)
5a.	骨体中央矢状径	12 (左)	13	13 (左)
5(5).	骨体中央周	43 (左)	51	47 (左)
5/4	骨体断面示数	-	68.42	76.47 (左)
5a/4a	中央断面示数	80.00 (左)	72.22	76.47 (左)

表 3 は男性大腿骨の主要計測値と示数値の比較表である。骨体中央周で大腿骨の大きさをみると、本例は 85mm で、汐汲 9 号 (78mm) と風呂ヶ迫 (81mm) よりも大きく、朝田 (85.17mm)、南ノ前 (84.50mm) の平均値と大差ない値である。

骨体中央断面示数は 107.69 で、汐汲 7 号 (120.83) よりはかなり小さいが、その他の風呂ヶ迫、朝田、汐汲 9 号、南ノ前よりも大きく、大腿骨の側面は後方へやや発達しており、弱い柱状性を示している。また、上骨体断面示数は 78.13 で、風呂ヶ迫、汐汲 9 号、南ノ前よりは大きい、朝田、汐汲 7 号よりは小さく、骨体上部は扁平である。

すなわち本古墳人の男性大腿骨は、周辺地域の古墳人と比較してみれば、周辺地域の古墳人と同様骨体は細く、骨体上部も扁平であるが、周辺地域の古墳人よりも柱状性がやや強い大腿骨である。

表3 大腿骨計測値(男性、右、mm)(Table 3. Comparison of measurements and indices of male right femora)

	田原山崎		南ノ前		風呂ヶ迫		汐 汲		朝 田	
	古墳人		古墳人		古墳人		古墳人		古墳人	
	福岡県		福岡県		山口県		山口県		山口県	
	北九州市		岡垣町		下関市		下関市		山口市	
	(松下・他)		(松下)		(松下)		(松下・他)		(松下・他)	
	FE-3	n	M	1号墓人骨	7号	9号	n	M		
6.	骨体中央矢状径	28 (左)	4	26.75	25	29	24	6	27.17 (左)	
7.	骨体中央横径	26 (左)	4	26.25	27	24	25	6	26.67 (左)	
8.	骨体中央周	85 (左)	4	84.50	81	84	78	6	85.17 (左)	
9.	骨体上横径	32 (左)	5	30.00	31(左)	28	30	6	30.17 (左)	
10.	骨体上矢状径	25 (左)	5	22.40	20(左)	23	20	6	24.50 (左)	
6/7	骨体中央断面示数	107.69 (左)	4	102.67	92.59	120.83	96.00	6	102.03 (左)	
10/9	上骨体断面示数	78.13 (左)	5	74.77	64.52 (左)	82.14	66.67	6	81.29 (左)	

表4は女性大腿骨の主要計測値と示数値の比較表である。骨体中央周は76mmで、南ノ前(80mm)よりは小さく、朝田(77.43mm)に近い。骨体中央断面示数は84.62で、朝田、南ノ前よりも小さく、骨体両側面の後方への発達はまったく認められない。また、上骨体断面示数は74.92で、南ノ前よりはわずかに大きい。朝田よりも小さく、骨体上部は扁平である。

表4 大腿骨(女性、右、mm)(Table 4. Comparison of measurements and indices female right femora)

	田原山崎		南ノ前		朝 田		
	古墳人		古墳人		古墳人		
	福岡県		福岡県		山口県		
	北九州市		岡垣町		山口市		
	(松下・他)		(松下)		(松下・他)		
	n	M	n	M	n	M	
6.	骨体中央矢状径	1	22	1	26	7	24.00
7.	骨体中央横径	1	26	1	25	7	25.29
8.	骨体中央周	1	76	1	80	7	77.43
9.	骨体上横径	2	30.00	2	29.50	4	28.75
10.	骨体上矢状径	2	22.25	2	21.50	4	22.75
6/7	骨体中央断面示数	1	84.62	1	104.00	7	95.47
10/9	上骨体断面示数	2	74.92	2	72.93	4	79.15

要 約

北九州市小倉南区田原1丁目にある田原山崎古墳の発掘調査で、石室から人骨が検出された。人骨の保存状態はよくなかったが、一部観察と計測ができたので、周辺地域の資料との検討をおこなってみた。その結果は次のとおりである。

1. 人骨は散乱状態で検出され、寛骨、大腿骨、脛骨、橈骨、尺骨、肩甲骨、中手骨および頭蓋の一部が残存していた。
2. 橈骨は2～3体分、大腿骨は3体分残っていたことから、被葬者は少なくとも3体はあったと推測される。3体分の大腿骨はいずれも成人骨で、そのうち男性は1体、女性は2体と思われる。
3. 人骨の所属時代は、古墳時代後期と推測されている。

4. 計測ができたのは、橈骨と大腿骨であった。男性橈骨はやや細く、大腿骨は古墳人としては平均的な大きさで、骨体は細かったが、男性大腿骨には弱い柱状性が、女性大腿骨には骨体上部の扁平性が認められた。

《参考文献》

1. 九州大学医学部解剖学第二講座、1988：日本民族・文化の生成、2、九州大学医学部解剖学第二講座所蔵古人骨資料集成。六興出版、東京。
2. Martin-Saller, 1957：Lehrbuch der Anthropologie. Bd.1.Gustav Fisher Verlag, Stuttgart：429-597.
3. 松下孝幸、1982：山口県朝田墳墓群第Ⅱ地区出土の人骨。朝田墳墓群Ⅴ（山口県埋蔵文化財調査報告64）：179-206.
4. 松下孝幸・他、1983：山口県山口市朝田墳墓群第Ⅱ地区出土の人骨—総括篇—。朝田墳墓群Ⅵ（山口県埋蔵文化財調査報告69）：219-242.
5. 松下孝幸、1984：宇部の古人骨。宇部地方史研究、第12号：1-23.
6. 松下孝幸・他、1986：山口県豊浦町汐汲遺跡出土の古墳時代・中世人骨。汐汲遺跡（豊浦町埋蔵文化財調査報告第7集）：75-102.
7. 松下孝幸・他、1991：山口県妙徳寺山古墳出土の人骨。山口県文化財報告第134集：71-76.
8. 松下孝幸・他、1994：北九州市浦山古墳出土の人骨。南方浦山古墳（北九州市文化財調査報告書第58集）：13-17.
9. 松下孝幸、1996：山口県菊川町風呂ヶ迫横穴墓群出土の古墳時代人骨。風呂ヶ迫横穴墓群発掘調査報告（菊川町埋蔵文化財調査報告第4集）：21-28.
10. 松下孝幸、1997：福岡県犀川町古川平原古墳出土の古墳時代・近世人骨。古川平原古墳群（犀川町文化財調査報告書第5集）：82-98.
11. 松下孝幸、2000：福岡県岡垣町南ノ前墳墓群出土の古墳時代人骨。南ノ前古墳群（岡垣町文化財報告書第18集）：1-24.

* Takayuki MATSUSHITA、 ** Masami MATSUSHITA（特定非営利活動法人人類学研究機構）

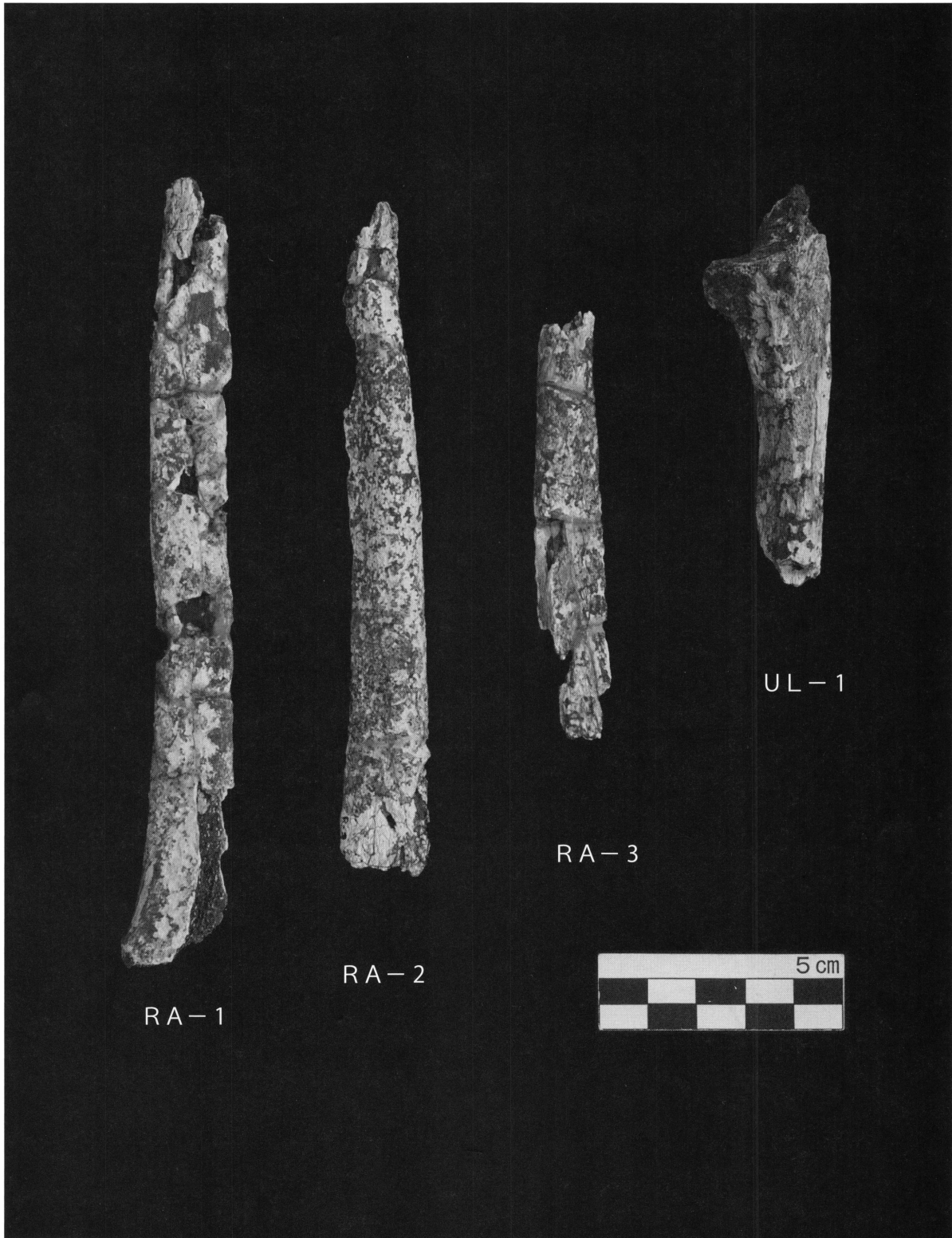
表5 橈骨(mm)(Radius)

	田原山崎	
	RA-1 男性 右	RA-2 男性 左
1. 最大長	-	-
1b. 平行長	-	-
2. 機能長	-	-
3. 最小周	-	41
4. 骨体横径	-	-
4a. 骨体中央横径	15	15
4(1). 小頭横径	-	-
4(2). 頸横径	-	-
5. 骨体矢状径	-	-
5a. 骨体中央矢状径	11	12
5(1). 小頭矢状径	-	-
5(2). 頸矢状径	-	-
5(3). 小頭周	-	-
5(4). 頸周	-	-
5(5). 骨体中央周	43	43
5(6). 骨下端幅	-	-
3/2 長厚示数	-	-
5/4 骨体断面示数	-	-
5a/4a 中央断面示数	73.33	80.00

・R-1とR-2は同一個体と思われる。

表6 大腿骨(mm)(Femur)

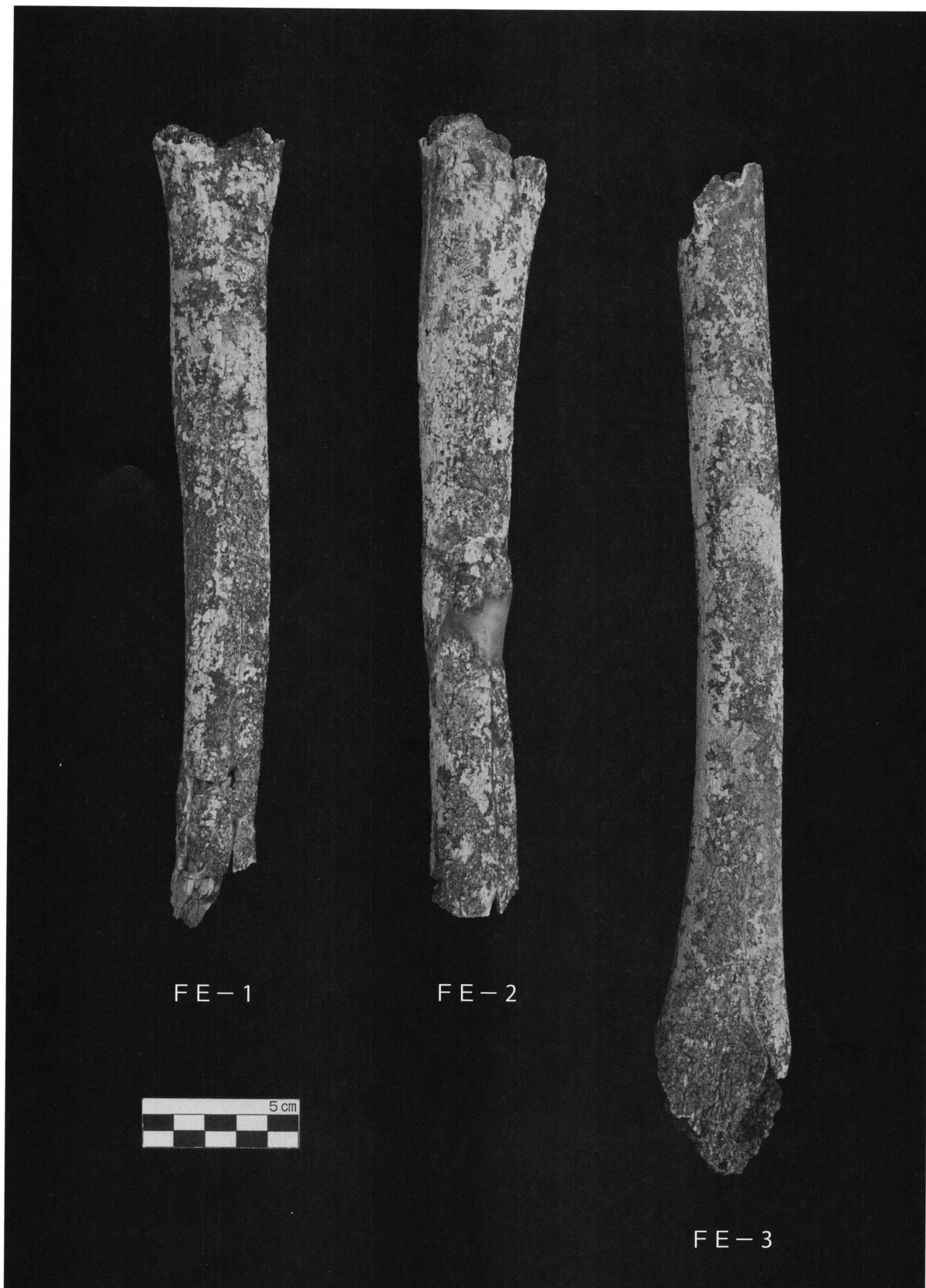
	田原山崎		
	FE-1 女性 右	FE-2 女性 右	FE-3 男性 左
1. 最大長	-	-	-
2. 自然位全長	-	-	-
3. 最大軀子長	-	-	-
4. 自然位軀子長	-	-	-
6. 骨体中央矢状径	22	-	28
7. 骨体中央横径	26	-	26
8. 骨体中央周	76	-	85
9. 骨体上横径	29	31	32
10. 骨体上矢状径	21	24	25
15. 頸垂直径	-	-	-
16. 頸矢状径	-	-	-
17. 頸周	-	-	-
18. 頭垂直径	-	-	-
19. 頭横径	-	-	-
20. 頭周	-	-	-
21. 上顆幅	-	-	-
8/2 長厚示数	-	-	-
6/7 骨体中央断面示数	84.62	-	107.69
10/9 上骨体断面示数	72.41	77.42	78.13



橈骨・尺骨 (The Radius・Ulna)

RA-1、RA-2 (左右橈骨・男性)、RA-3(右橈骨・性別不明)、UL-1 (右尺骨・男性)

田原山崎古墳
(The skeleton from the Taharayamasaki tomb)



大腿骨 (The femur)

FE-1(右大腿骨・女性)、FE-2(右大腿骨・女性)、FE-3(左大腿骨・男性)

田原山崎古墳
(The skeleton from the Taharayamasaki tomb)

土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム

研究紀要

第11号

発行年月日 2016年3月
編集・発行 土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム
〒759-6121 山口県下関市豊北町神田上891-8
TEL 083-788-1841
FAX 083-788-1843
印刷 アロー印刷株式会社
〒751-0818 下関市卸新町10-3
TEL 083-223-1211
FAX 083-223-1309
